

9-3 地震のことを考え、話し合ってみよう③ — 自然やまちのことを地図に書き込みましょう

河川や道路、公園など自然やまちのことについて、グループで話し合いをしながら、地図に書き込みます。



自分が住む地域の地形やまちのことを理解します。



時間軸

実施内容

以下、説明文【例】をもとに進めてください。

1 「自然やまちのことを知る」の資料説明 (5分)

→資料9-2

説明文【例】

(資料9-2を配付してください。)

それでは、実際に地図に書き込みをしていきます。まちのなかにある、道路や河川などについて、これから説明する要領で書き込みを行ってください。なお、油性ペンで塗る色については、次のような資料9-2を参考にしてください。

<「油性ペンで塗る」凡例>

鉄道▶

まず「鉄道」ですが、黒色の太い油性ペンでなぞってください。工場などにある鉄道も対象にしてください。

大きな道路▶

次に「大きな道路」ですが、国道や県道など比較的広い道路から順番に、茶色の油性ペンでなぞってください。これによって、地域のさかい目が目立つようになります。

せまい道路▶

次に、道路がせまくて消防車が入れないような「せまい道路」ですが、ピンク色の油性ペンでなぞってください。このピンクの線が目立つところは、火が起きたときに燃え広がる危険があり、消火活動がしにくく、避難路の確保も難しい地域と言えます。

※せまい道路の考え方：乗用車は通れても、バスは通れないような道路とお考えください。

広場・公園・建物がない広い場所▶

次に「広場・公園・建物がない広い場所（学校・神社・田畑・空き地など）」は、敷地のまわりを黄緑色の油性ペンでなぞります。ここでは、どこに、どのくらいの広さの場所があるかを把握することが重要になります。

用水路・小さな河川など▶

次に「用水路・小さな河川や海岸線」を青色の油性ペンでなぞってください。水道が使えなくなったとき、火を消すための水や、手洗いや洗たくに使う水が手に入る場所がわかります。

燃え広がりの防止になりそうな鉄筋コンクリート造の建物▶

火災の時に燃え広がりの防止になりそうな鉄筋コンクリート造の建物（ビル・マンション・デパートなど）は、建物のまわりを紫色の油性ペンでなぞってください。鉄筋コンクリート造の建物が連続してあれば、それ以上燃え広がることを防げるかもしれません。



透明シートの上から油性ペンでぬっていく



グループで話し合いながら作業

2 地図への書き込み (15分)

説明文【例】

それでは、今説明した資料9-2を参考に、グループごとに地図に書き込みを行ってください。

●● 指導ポイント

各グループをまわりながら、話し合いが進んでいないグループや地図への書き込みが滞っているグループがあった場合、1つ2つ例示をして誘導してあげると、議論が活発になります。人員に余裕があれば、議論を誘導していく役割の方を1グループに1人付けると効果的です。

●● 自主防災組織の関わり方

各グループにはりついて、講師の指導を補助する役をお願いすることが考えられます。

●● 準備するもの(目安)

準備品	数	備考
□資料「自然やまちのことを知る」	グループに1つ	資料9-2 (配付用)

●● ひと工夫

どのあたりが火災に弱いとか、どこに行けば水を確保できるといった特徴を、地図に塗った色を見ると視覚的につかむことができます。

先に示した資料9-2以外に、どうしても地図に書き込みたいものがあるかもしれません。そういった質問があったら、自由に書き込んでよいと伝えてください。

教材で示しているペンやシールの色は、ひとつの目安です。自由に色を決めてもかまいません。

●● 注意事項

油性ペンを使用する場合は、換気に気をつけてください。

ベンジンはティッシュペーパーに浸して使用してください。また使用の際は、こぼさないように気を付けてください。換気は十分行ってください。